修士論文(要旨)
2010 年 1 月

成人アトピー性皮膚炎患者におけるストレッサー認知が自尊感情に及ぼす影響に関する検討

指導　種市康太郎准教授

国際学研究科
人間科学専攻　臨床心理学専修
208J5023
横田裕子

目次

１．はじめに
1-1.アトピー性皮膚炎とは
1-2.アトピー性皮膚炎と心理社会的要因
1-3.アトピー性皮膚炎患者のパーソナリティ傾向
1-4.アトピー性皮膚炎患者への心理的介入に関する研究
1-5.アトピー性皮膚炎と認知的変数
２．目的
３．方法
3-1.調査対象
3-2.調査材料
3-2-1.アトピー性皮膚炎患者ストレッサー尺度
3-2-2.認知的統制尺度
3-2-3.日本版 Health Locus of Control 尺度
3-2-4.自尊感情尺度
3-2-5.フェイス項目
3-2-6.アトピー性皮膚炎の病態に関する項目
3-3.調査時期
3-4.分析
４．結果
4-1.対象者の属性，および使用した尺度の内的整合性の確認
4-1-1.対象者の属性
4-1-2.認知的統制，HLC のクロンバックα係数の計算
4-2.属性別の比較
4-2-1.各尺度における性差・年齢差の検討
4-2-2.主観的重症度の分類による各尺度の検討
4-2-3.主観的重症度別のアトピー性皮膚炎の状態の検討
4-2-4.痒みを感じる状況の検討
4-2-5.アトピー性皮膚炎が悪化する時期に関する検討
4-3.ストレッサー，認知的統制，HLC，自尊感情間の関係について
4-3-1.ストレッサー尺度において最も強いストレスであった項目の検討
4-3-2.ストレッサー，認知的統制，HLC，自尊感情間の相関
4-3-3.ストレッサー認知が自尊感情に及ぼす影響の検討
５．考察
5-1.性差・年齢差について
5-2.主観的重症度の分類による各尺度の検討について
5-3.主観的重症度別のアトピー性皮膚炎の状態の検討について
5-4.痒みを感じる状況の検討について
5-5.アトピー性皮膚炎が悪化する時期に関する検討について
5-6.ストレッサー尺度において最も強いストレスであった項目の検討について

5-7.ストレッサー，認知的統制，HLC，自尊感情間の関係について
６．総合考察
引用文献
謝辞
APPENDIX

１．はじめに

近年，青年期以降に発症，再発あるいは悪化する，心身症としてのアトピー性皮膚炎（Atopic Dermatitis；以下，AD）患者の増加とその難治化が社会的問題となっている(上田，2000)。その増悪と寛解には心理社会的要因が関与するため，様々な心理的介入が試みられている。特に「AD であること」によるストレッサーは疾患に大きく関与する要因である。そこへの心理的介入として，ストレッサーに対する認知への介入が挙げられる。本研究では認知的変数として，認知的統制と主観的健康統制感（Health Locus of Control；以下，HLC）を，それら変数から影響を受ける変数として自尊感情を取り扱った。AD 患者は健常者よりも自尊感情が低い(富家，2004)。しかし，ストレッサー認知を効果的に操作することによって，AD 患者の自尊感情の低下を抑えることができると予測される。

2. 目的

成人 AD 患者における AD 患者特有のストレッサー，認知的統制，HLC，自尊感情の把握と，ストレッサー認知が自尊感情に及ぼす影響について検討することを目的とした。

3. 方法

(1) 調査対象：15 歳以上の AD 患者 78 名（男性 32 名，女性 46 名，平均年齢 32.7 歳±8.95，回収率 41.0%，有効回答率 95.1%）を分析対象とした。

(2) 調査材料：①AD 患者ストレッサー尺度（奥野・上里，1999）；成人 AD 患者が AD であるために経験するストレスの程度を測定する。②認知的統制尺度（甘利・馬岡，2003）；刺激を解釈し，検証し，妥当でない場合は修正し，制御する機能を測定する。③日本版 Health Locus of Control 尺度（堀毛，1991）；個人の健康や病気に関する帰属傾向を測定する。④自尊感情尺度（Rosenberg，1965：山本・松井・山城，1982 に邦訳）；自己全体の能力や価値についての評価的な感情や感覚を測定する。⑤フェイス項目，⑥AD の病態に関する項目を調査材料とした。

(3) 調査時期：2009 年 6 月から 10 月にかけて行った。

(4) 分析：SPSS ver17.0， ANOVA4 on the Web， JavaScript-STAR version 5.5.0j を用いた。

4. 結果と考察

(1) 主観的重症度の分類による各尺度の検討について

調査材料①から④について主観的重症度（軽症・中等症・重症）を要因とした分散分析を行った。その結果，重症群は中等症群や軽症群よりも，中等症群は軽症群よりも，ストレッサーの経験頻度が高く，嫌悪性も強かった。また，破局的思考の傾向がみられた。さらに，主観的重症度が高いほど，掻痒感や掻破行動の程度が強くなった。ここから，AD への介入の際には主観的重症度などの個人差を考慮することの重要性が示された。他方，論理的分析，HLC 全因子，自尊感情においては，主観的重症度の違いによる有意な差は認められなかった。

(2) ストレッサー，認知的統制，HLC，自尊感情間の関係について

ストレッサーと認知的変数を説明変数，自尊感情を基準変数とした重回帰分析を行い，ストレッサー認知が自尊感情に及ぼす影響を検討した。その結果，自尊感情を低下させないためには認知的統制が有効であることが示された。また，逆の因果関係，すなわち自尊感情が認知的統制に影響を及ぼしている可能性も考えられた。因果関係については複数の可能性はあるものの，認知的統制と

自尊感情はADのストレッサーに影響を与える重要な変数であることが示された。そこで，認知的統制と自尊感情を高める心理的介入を行うことで，ADにより生じるストレッサーに対し適切な認知的統制を行うことや，AD 患者が疾患を持ちながらも自尊感情を損なわずに生活することが可能であると考えられた。

5. 今後の課題

今後の課題としては，サンプルを十分に確保すること，また，そのサンプルを偏りの無いものにすることが挙げられる。特にサンプルの偏りについては，本研究においては，AD 自助グループからの回収が多数を占めた。しかし，そのグループはガイドラインが示す従来の治療を用いないことを主眼としたグループである。よって，AD 患者全体を母集団として考える際，本研究におけるサンプルは標準から，やや偏りが生じている可能性を否めない。加えて，受けている治療法により患者を分類する必要性も挙げられる。というのは，AD の治療法には様々な種類があるため，患者間で異なる治療法が用いられている可能性がある。そのため，現在受けている AD 治療自体が，患者に異なる心理的・身体的状態をもたらしている可能性が考えられるからである。また，医師など医療従事者との間における信頼関係や治療法に対する信頼感が，患者に及ぼす影響も大きいと考えられるため，医療に対するコンプライアンスなども要因として考慮する必要があるだろう。また，本研究では，ストレス反応を測定する尺度を用いなかった。ストレス反応に関する測度を加えることで，ストレッサーが認知や自尊感情に及ぼす影響についてより深く検討できたと思われる。他には，検討すべき変数を絞って研究を行う必要性が挙げられる。本研究においては，多様なデータを回収しようとし，検討事項が散漫になってしまったように思われる。このような課題を克服し，AD 患者にとって臨床的に有意義な，実践的かつ具体的な心理的援助方法が提案できる研究をすることが望ましいだろう。

参考文献

甘利(杉浦)知子・馬岡清人(2003). 女子大学生における認知的統制と抑うつとの関連　健康心理学研究, 16, 31-42.

安藤哲也(2009). アトピー性皮膚炎 (特集 ストレス関連疾患 ―ストレス関連疾患の診断と治療) 治療, 91, 99-104.

遠藤辰雄・井上祥治・蘭千壽(1992). セルフ・エスティームの心理学―自己価値の探求― ナカニシヤ出版.

古江増隆・佐伯秀久・古川福実・秀道広・大槻マミ太郎・中村敏明・佐々木りか子・須藤一・竹原和彦(2008). 日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2008 改訂版　日本皮膚科学会, 118, 325-342.

伊藤忠弘(1994). 自尊心概念及び自尊心尺度の再検討　東京大学教育学部紀要, 34, 207-215.

川原健資・山本晴義・江花昭一・津久井要・佐々木篤代・加藤一郎・向井秀樹・熊野宏昭(1997). 成人型アトピー性皮膚炎の心身医学的研究(第 1 報) ―特に重症度・経過からみた心理学的特徴の検討―　心身医学, 37, 337-346.

奥野英美・上里一郎 (1999). アトピー性皮膚炎患者ストレッサー尺度の作成　日本カウンセリング学会第 32 回, 207-208.

奥野英美・上里一郎 (2002). 成人アトピー性皮膚炎患者の心理的ストレス反応　健康心理学研究, 15, 49-58.

堀毛裕子(1991). 日本版 Health Locus of Control 尺度の作成　健康心理学研究, 4, 1-7.

Rosenberg, M.(1965). *Society and the adolescent self-image*　Princeton, N.J.: Princeton University Press.

富家直明(2004). アトピー疾患者の自尊感情の向上を目指した集団認知行動療法の開発　コスメトロジー研究報告, 12, 117-123.

上田宏(2000). アトピー性皮膚炎の疫学 小児内科, 32, 986-992.

山本真理子・松井豊・山成由紀子(1982). 認知された自己の諸側面の構造　教育心理学研究, 30, 64-68.